



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2024年10月31日

11月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

「家読」いかが？

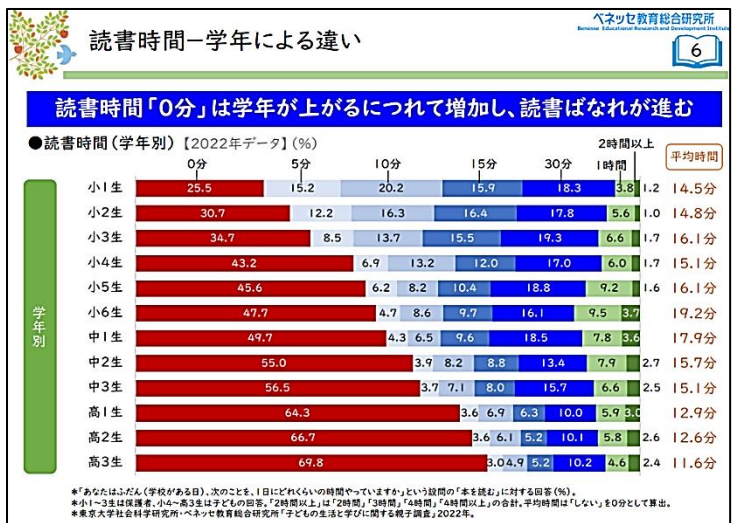
突然ですが、保護者の皆さんは本を読んでいますか？そして、お子さんは家でどれくらい本を読んでいそうですか？

というのも、私が校長会としてのお役の一つで参加した「茅ヶ崎市立図書館協議会」でいただいた資料（右グラフ）がなかなかショッキングだったからです。全く読書をしないという子どもの数は小1で25.5%です。それが、6年生では47.7%にまで増加します。高3にでは、なんと約70%が全く読書をしないという結果が出ています。

読書は、国語はもとより算数でも成績との相関関係が見られるとされています。もちろん成績だけでなく、言葉そのものを豊かにしたり、感性に磨きをかけたり、表現力、創造力を豊かなものにしたりすることもできます。人生をより深く生きていくには不可欠ともいわれるくらいのさまざまな効果があります。

読書は大事…そんなことは誰でもわかっています。「読みなさい！」の一言で子どもが本を読み始めるのなら、そんな簡単なことはありません。では、どうするか。

少し前から出てきた言葉で「家読（うちどく）」というものがあります。学校では、「朝読（あさどくー子どもも教師も10分間共に本を読む時間）」を設定しています。これと同じです。おうちで曜日や時間を決めて家族全員が共に本を読む時間を設定しようというものです。テレビやゲーム、スマホを止めて短い時間でも一緒に本を読む時間を作ってみませんか？同じ本を回し読みしたり、その感想を交換したりするとより楽しさが増すでしょう。絵本がおすすめです。読書の秋に「家読（うちどく）」を、ぜひお試しください。



【出典】「子どもの読書行動の実態—調査結果からわかること—」
東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 2023年10月19日

「校長とお話し会」のお礼

第1回には、10名の方にご参加いただき、大変充実した話し合いをすることができました。ありがとうございました。教職員だけで考えていたら気づかない視点をたくさんいただきました。ただ、ただ感謝です。

「校長とお話なんて緊張する」「敷居が高い」というお話も出ましたが、決してそんなことはないことを実感していただいたかと思いましたがどうでしょう？

第2回は3月5日（水）15:00～16:00を予定しています。1月に再度ご案内いたします。

司書の安藤先生おすすめの本

「ぼくがラーメンたべてるとき」

長谷川義史 教育画劇

・表紙からは想像がつかない深さがあります。時や自分以外の人・物事に思いを馳せるきっかけになる、心の片隅に置いておきたい本です。



校長先生おすすめの本

「くまの子ウーフ」

神沢利子 ポプラ社

・「魚にはどうして舌がないの?」「おっことさないものなんだ?」「ウーフはおしっこでできてるか??」など哲学的な疑問を解決するたびに大きくなっていくウーフがかわいいです。

